

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成 30 年 4 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人 一般社団法人 日本病院会 通信教育課
〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <http://www.jha-e.com/>
受付時間 9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)
発 行 日 毎月 1 日
定 価 1 部 150 円 1 カ年 1,600 円(税込・送料込)
郵便振替 00190-5-396045
名 義 一般社団法人 日本病院会 通信教育部

ベッドサイド エピデミオロジー

宮本 宏

介護老人保健施設 ナーシングヴィラ大谷地 施設長

喫煙率とか受動喫煙という言葉を目にすると、40年近く前、私が「肺癌の臨床統計学的解析」を行った頃のことを思い出します。当時大学には診療録管理士はおらず、暗い廊下の棚に積まれ埃かぶったカルテを一冊ずつ取り出し約 500 例の患者データを集め、それを大学内にある大型計算機センターへ行って統計解析をしました。当時、パソコンはまだ一般には普及していない頃で、今から思えばのんびりした時代でした。多くの担当医が書かれた記録の積み重ねから多数の貴重な情報が得られた一方、カルテの記載が不十分なものに出会うと残念に思ったものです。

丁度その頃、国立がんセンターのある先生の論文で **bedside epidemiology** (ベッドサイド エピデミオロジー) という言葉を知りました。これは新しい診断法や治療法の真価を定め、さらに発病要因の分析のために多人数の集団に観点を向ける必要があることを言われ、今で言う臨床疫学 (**clinical epidemiology**) を指していたと考えられます。しかし、当時は症例を対象とする臨床医学が研究されていた中、臨床疫学という言葉は本邦ではまだまだあまり使われていなかったもので、この言葉はとても新鮮に覚えたものです。特にベッドサイドという言葉には、現場の臨床医により、小規模でも一例一例に対し精度の高いデータを作り、その中から自らエビデンスをつくりあげていこうとする姿勢が見受けられ、診療記録の重要性を改めて教えられたものでした。

その後、理論や経験に依存した医療から「根拠に基づく医療」(EBM: evidence-based medicine) へという用語が初めて北米で提唱されたのは 1992 年のことで、この EBM 実践の基となっているのが臨床疫学でした。近年、多くの学会からも EBM に基づいて各種疾患の診断・治療ガイドラインが作成されてきており、わが国でも臨床疫学は、臨床医学の基礎科学としてその重要性が評価されつつあります。

診療記録の価値は医学研究上の他にもいろいろあるが、その都度、記録をデータベース化し、過去のデータと比べ易くすることによってその価値はさらに高くなると言えます。最近、電子カルテや DPC (断群分類包括評価) が普及されつつあり、昔に比べるとデータの編集や分析能力には格段の進歩が見られます。ただし、時代が変わっても病歴の記載は医療者の良心の客観的表現であり、精度の高い診療記録が重要であることには変わらないと思われます。また、5年、10年さきに学ぶ人達の知識のベースとなることの価値は重大なものであり、診療情報管理士の役割もさらに大きくなることでしょう。一方、「データベースから導かれる一般律に沿わない例外現象など個々の特徴も大切にしてみ落とさないことが、新しい発見に通ずるものである」という恩師の言葉を私は印象深く思い出されます。